

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

人が集まる魅力ある職場づくり 「佐賀さいこう表彰」を受ける！

理事長 織田 正道

コロナ禍3年目、当院は重点医療機関になると共に、24時間対応の発熱外来、さらに日曜ワクチン接種と、新型コロナウイルスに対し積極的な対応を続けてきました。このような取り組みにより、地域からの信頼と期待は、これまで以上に大きくなつたと感じます。そして、これ等を支え可能としているのは、「民間病院であつても社会の公器である」という法人の方針を理解し、共に働く多くの仲間にも恵まれているからです。

さて、当法人はこの30年余り「ヒトが集まる魅力ある職場づくり」に努めてきました。その中軸となるのが、職員が安心して生涯を通して仕事ができる環境づくりです。そのためには、職員各人が心身ともに健康であることが大切ですので、定期健康診断や生活習慣病検

診100%、さらに男性は前立腺特異抗原、女性はマシオングラフィ検査の全額補助など健康管理に重点を置くと共に、ワークライフバランス、働き方改革の推進、年次有給休暇取得、職場のタスクシェア・タスクシフトやコミュニケーションの促進など職場環境づくりにも力を入れてきました。また、出産、子育てをしながらも安心して仕事を続けることができるように女性職員だけでなく男性職員にも産休・育児休暇取得を進めています。これ等のことが評価され、経済産業省より、2021年、2022年連続で「健康経営優良法人（大規模法人）」の認定を受けました。

さらに、この8月9日には佐賀労働基準局より、仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組むなど10の要件を満たす企業として、県内の病院では最初となる「く

るみん」認定を受けました。

また、8月31日には、がん検診の積極的な啓発や、禁煙相談、SNSを活用した健康情報提供などを評価され、県知事から「佐賀さいこう表彰」をいただきました（写真1、2）。ちなみに「佐賀さいこう！」とは、「佐賀最高」と「佐賀再興」の二つの意味を併せ持ち、佐賀県を訪れた方の満足度の向上を図ると同時に、県民の

佐賀県に対する誇りの醸成にもつなげていく表彰です。

以上のように、これまで取り組んできたことが高い評価を受けました。この4月より白石町の高島病院もグループ病院となり職員数も増えました。これらの認定や表彰を励みに、今後も職員にとって「働きがいがある」「働きやすい」、お互い助け合い、支え合える「お互いさまの精神」が浸透した組織風土・環境づくりに努めていきたいと思えます。



写真 1



写真 2

「至慈会」の紹介と祐愛会との一体化を目指して

至慈会理事長 西山雅則



「至慈会」ってなんのことかと思われた方もいるかと思いますが、高島病院と清涼荘を運営する医療法人です。

鹿島から444号線を上り、竜王崎を過ぎてJR長崎本線の上にかかる原田跨線橋を登りきるとほぼ正面に見える一番高い建物が高島病院です。白石平野から佐賀平野そして筑後平野に至るいわゆる筑紫平野の入り口に位置します。すぐそばを長崎本線の特急が一気に一瞬で駆け抜けて行きます。肥前竜王駅から次の肥前白石駅近くまでの約4.5km、線路は直線で病院はその線路脇にあります。「曲がった線路を見ると何となく不安感が募るが、まっすぐな線路は気持ちを前向きにし、将来への展望が開けたように感じさせる」と、何かの本で読んだことがあります。線路の先は遠くに見えませんが、明るい未来を予感させます。一度皆さんに見に来てほしいですね、たとえ特急「かもめ」であつても疾走するさまは爽快です。

この4月から祐愛会と至慈会が姉妹病院になったことは、織田理事長が、ゆうあい報「おだびたる」の前号で紹介されました。病床数は、高島病院が172床（医療療養52床、介護療養60床、介護医療院60床）で、介護老人保健施設「清涼荘（80床）」が併設されています。外来は、一般外来（内科・外科・整形外科）に加え、常勤医のいる科として小児科があり

ます。

杵藤地区において、慢性期機能を担う高島病院の存在は重要です。そして、介護老人保健施設も、ケアコートゆうあい超強化型であるのに対し、清涼荘は基本型であり、要介護者のニーズによって異なる機能を提供できます。

まずは私と諸岡義彦前ケアコートゆうあい副施設長（現、至慈会統括本部長）が向かっています。来年度、祐愛会との関係がどのようなものになるかは、今（8月初旬）の時点では未定ですが、より緊密に一体化を目指して進んでいくことは確実です。

至慈会と祐愛会、それぞれの長い歴史の中でそれぞれに培われてきた風土は違いますが、少しずつ相互理解を深めていく必要があります。十数年前、織田理事長とメイヨー・クリニックに関する本（すべてのサービスは患者のために）伝説の医療機関「メイヨー・クリニック」に学ぶサービスの核心」…原題「Management Lessons from Mayo Clinic」を読みながら、「メイヨー・クリニック」に学びそれを目指したいと語り合ったことがあります。クリニックの精神（Spirit）といわれるものの中に、「個々の患者のケアと幸福を、第一にかつ真摯に考えつづけること」、「社会の移り行くニーズに対応して変化していく意欲を持つこと」とあります。そして、祐愛会の目標には、①患者さんのニーズを最優先にします、②地域の医療ニーズに応えます、というのがあります。お互いの理解を深めていくためにはこのことがまず大切なことではないかと思えます。つまりどのような



話し合いの場であっても、「それは患者（利用者）さんのためになるのか」、「それは地域のためになるのか」ということを常に思考の原点に置きましよう。そうして少しずつ同じ価値観を共有していければいいなと思っています。

「日々は産み出すものであつて、費やすものではない」。毎日なにかしらの新しいことを成すべく、祐愛会のサポートを受けながら諸岡統括本部長と楽しく頑張っているところです。

『佐賀県感染防止対策地域連携協議会』感染対策派遣

感染管理認定看護師 江口 芙美子

感染管理認定看護師（CNC）となって7年が経ちました。感染管理認定看護師は、感染対策における高度な専門知識や実践力をもつ日本看護協会が認定した看護師です。主な活動として、医療関連サーベイランスの実践、施設状況の評価、感染予防・管理システムの構築などを行い、院内の感染制御チーム（医師・薬剤師・検査技師・看護師）として週1回程度のラウンドも行っていきます。

2019年12月から続く、いまだ終わりの見えない新型コロナウイルス感染症。第7波では過去最高の感染者が確認されており、様々な現場で一人一人が対策を講じているにもかかわらず、クラスターも多発しています。私は院内の感染管理活動とは別に、佐賀県感染防止対策地域連携協議会（HICPAC-S・Hizen Infection Control Practice and Conference - Saga）の世話人として、HICPAC-Sの活動目的は「医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師および医療・介護に従事する者が感染対策の課題について検討し、協力関係のもとに地域の感染対策に質向上をもたらし、また、佐賀県下の医療機関および行政機関と密接に連携し、良質な医療体制の構築に貢献すると同時に相互の知識向上を図る」とされています。

HICPAC-S発足当初は佐賀市や唐津市で標準予防策などのテーマで集合研修会を開催していましたが、新型コロナウイルス

感染症の発生以降は、地区別担当制となり地域の病院や介護施設等へ出向いて現地指導を行っています。私は杵藤地区・伊万里地区を担当し、約2年間で14件（内クラスター対応6件）の現地指導を実施しましたが、派遣活動の度に緊張が走ります。出向く現場では既に保健所からクラスター対応チェックシートが配られ、現場職員はそれをもとに出来る範囲での感染対策を行っておられます。しかし、手指消毒剤や個人防護具などが十分ではなく、物品を効果的に使用できていないのが現状です。現場の方から詳しく状況を伺い全体的状況を把握した後に、注意点・改善点を伝え、効率よく感染対策ができるような指導を心がけています。現場の方から「あー、そういう事ね。よく分かりました。」「よかったー。」などと言ってもらえると私も嬉しく、活動の励みとなっています。これからも、一人でも多くの方が適切な感染対策を実施できるように活動していきま。今後とも宜しくお願致します。



MRI安全教育

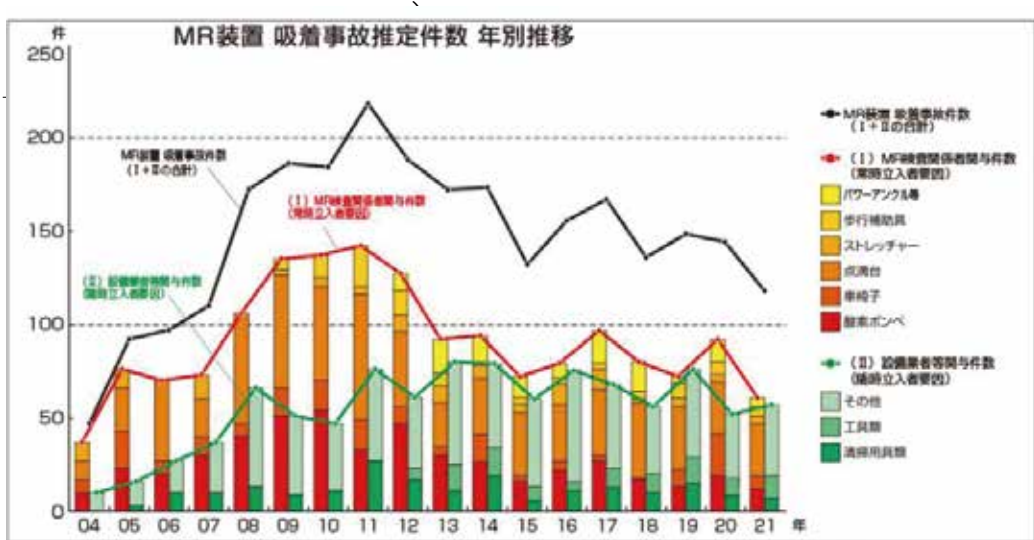
診療支援部放射線科 寺本尚也

MR装置は強力な磁場を発生させて生体信号を画像化する装置です。この強力な磁場による金属の吸引・吸着事故は、世界中で多数報告されており、毎年100〜200件の報告が見られています。(図1) その中でも特に重大な事故として、酸素ボンベの吸着に伴う死亡事故が、2017年インド、2021年韓国で発生しています。

MRI検査室内は、検査中だけでなくも常に強力な磁場が発生しています。不注意で金属（医療機器、職員制服ポケット内容、患者装着物等）を持ち込むと、MRI装置に向かって勢いよく飛んでいき、患者さんや職員を直撃したり、装置を破壊したりします。大きな金属物とMRI装置の間に人間が挟まれて重大事故となつた報告や、吸着された金属を取りはずそうとして二次的事故が発生した報告もなされています。また、吸着された金属磁性体を取り除くためには、一旦磁場を解除する必要があります。その場合、復帰に一ヶ月近くを要し、その間MRI検査が出来なくなってしまう。

当院では毎年新入職員を対象とした「MRI安全教育」を実施しており、今年度も18名が参加しました。吸引・吸着事故の実験や実例のDVD視聴の後、実際にMRI室内に入

り磁場体験を行ってもらいながら危険性を理解してもらいました。また、ベースメーカーや人工関節など、生体内金属の事前チェックの重要性も徹底しました。強力な磁場を発生しているMRI装置を安全に利用するためには職員教育がなにより重要で、今後も事故を起こさないように安全教育に努めていきたいと思います。



(図1) 一般社団法人 日本画像医療システム工業会 安全管理情報 MR装置吸引事故推定件数 年別推移グラフ (2022.4.15)

災害への備え ～アクションカード～

防災救命担当部長 中島 来

BCP (Business Continuity Plan:事業継続計画) とは、災害などのリスク発生時に業務が中断しないために、また万が一中断した場合でも、できるだけ早期に重要機能を再開させるための仕組みです。平時から業務継続について準備をしておくことと定義されていて、極めて重要な計画であることから、祐愛会では現在急ぎ策定中です。また、似たようなものに災害対応マニュアルやそれに基づくアクションカードがありますが、整理すると次のようになります。

「BCP策定の手引き」より

◇BCP

- ・事業が中断した際に、代替手段を使って、如何に事業継続をするかという点で検討される
- ・被害を最小限に留め、事業の継続や早期復旧を図るための計画
- ・災害マニュアルに沿って対応しながら、BCPPを発動するかどうかを検討

◇災害対応マニュアル

- ・発災後、直ちに何をすればいいかを定めた、緊急・初期対応の行動マニュアル
- ・リスクごと、つまり、地震や水害など事象ごとに、対応をマニュアル化する。

・発災直後、該当する災害対応マニュアルに沿って対応する。

◇アクションカード

- ・災害対応マニュアルをもとに作成する。
- ・災害発生直後に最低限必要となる行動を、簡単かつ具体的に示したもの。
- ・「今日入職した職員でも、これを見ればすぐ行動できる」くらいのイメージで作成する。

このようにアクションカードは、私たちが災害に直面したその時に、あるいは災害が差し迫った時に、我々がどのように動くべきかを指し示す指針となります。そのため、具体的に分かりやすく、だれもが迷わず動けるように作成する必要があります。一度作ったらそれで終わりはなく、改善に改善を重ねて「皆さん」で作り上げていくください。なぜなら、皆さんが使うものだからです。

現在、「停電」

への対応のアクションカードを策定しました。今後「風水害」「火災」「地震」など各災害への対応のマニュアルとアクションカードが策定される予定です。

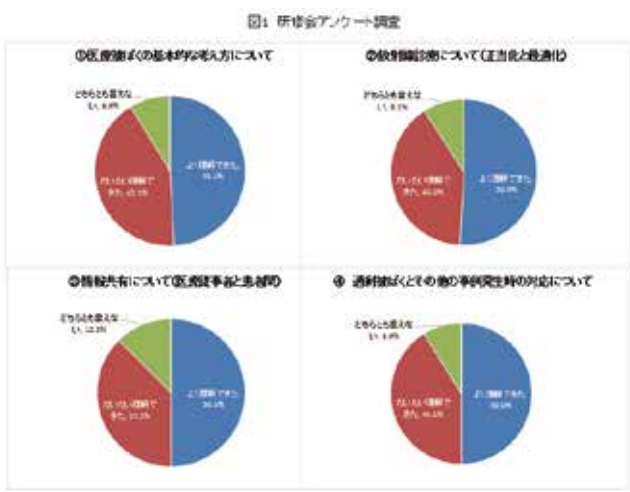


第3回 放射線安全管理研修会について

診断支援部放射線科 坂田 善和

9月に医師、看護師、放射線技師を対象に放射線安全管理研修会を実施しました。これは2019年に医療法施行規則が一部改正され、「医療機関の管理者は診療用放射線に係る安全管理体制を整備すること」が求められることになり、放射線診療に関わるスタッフ教育が義務化されたことによるものです。コロナ禍での研修会のため、昨年、一昨年に続きビデオ視聴による研修会としました。

研修会の内容は①医療法施行規則改定の背景 ②医療被曝の基本的な考え方 ③放射線診療の正当化と最適化 ④過剰被曝その他の事例発生時の対応 ⑤医療従事者との



患者間の情報共有 という5つのセクションで構成されています。研修会後のアンケートでは、各セクションともに(図1)に示すように、ほとんどの方が理解できたと回答されました。特に重点的に学んでほしい②と③のセクションにおいて9割近くの方が理解できたと回答され、研修会を主催する側として十分効果があったと感じております。研修会受講者の感想を(表1)に一部抜粋して紹介しています。

病院では日常的に行われている放射線検査ですが、多くの職員が、放射線に関するリスクや不安を感じることが解りました。目に見えない、体を感じない放射線であるが故に、不安を払拭するためには正しい知識を身につけることが何より大切です。放射線分野は、医療従事者においてもなかなか理解するのが難しい専門分野ですが、これからも、毎年開催する研修会を通して、職員の放射線に関する正しい知識の獲得と理解が進むように計画していきたいと思えます。

表1. 研修会の感想・医療被曝に関する意見

- ・検査件数を劇的に減らすのは難しいと思う。非放射線検査の簡便性や精度の向上が望まれる。
- ・透視、レントゲンなど結構な頻度で入るので被ばくが心配。
- ・専門的なこともあり、少し難しかった。
- ・法規制改正の背景から考え、事例報告までとても勉強になりました。
- ・検査時の被ばく量が必要最低限で考慮しながら対応しないとダメだと思います。
- ・リスクとベネフィットを考え、患者様に最適な検査を考えることが大事だと思います。

看護師特定行為研修修了者のゆうあいでの活動について

ケアコートゆうあい 副部長 織田 昇子

チーム医療を推進し、看護師が役割をさらに発揮するために、2015年10月1日に「特定行為に係る看護師の研修制度」が創設されました。看護師特定行為研修制度では、医師の判断を待たずに手順書により一定の診療の補助を行う看護師を計画的に養成することを目的としています。特定行為研修修了者(以下、修了者とする)は年々増加しており、現在(R4年3月)の修了者の総数は4,832人に上ります。祐愛会では、佐賀県最初の研修施設として2017年から養成が始まり、現在(R4年8月現在)までに15名の修了者を輩出しています。現在、ゆうあいピレッジには私も含め3名の修了者が在籍しています。



今回はゆうあいピレッジにおける修了者の役割について、現場での実践に関して紹介します。ケアコートゆうあい千々岩施設長や、織田病院皮膚科、形成外科等の医師の指示のもと、特定行為の「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」、「脱水症状に対する輸液による補正」、「気管カニューレの交換(自己抜去時)」について、手順書に沿って実施しています。これまで看護師だけではできなかった医療行為が可能になり、医師が現場にいなくても迅速な対応ができるようになりました。また特定行為研修では、病態生理・臨床推論・フィジカルアセスメント・薬理学などについての知識を深めることができました。介護現場での様々な相談、急変対応の相談があった場合には、研修で得た知識をもとに、フィジカルアセスメントや臨床推論を行い対応しています。研修修了後も、実践を重ねると同時に事例の振り返りを行いながら、さらに技術の向上を図る必要があると感じています。

次に教育に関して紹介します。常日頃からフィジカルアセスメント技術や思考過程を現場スタッフと共有するように努めています。このOJT(On the Job Training)により、スタッフ一人ひとりの考える力や判断力の向上に繋げていきたいと思っています。また、修了者がゆうあいピレッジ内のフィジカルアセスメント研修を担当しOff-JT(Off the Job Training)でも活動しています。

医師、看護師の少ない介護保険施設でこそ、看護師一人ひとりの的確で迅速な判断が求められます。そのような環境において修了者の活躍に期待される部分は多く、指導医の先生方の協力を得ながら、今後も看護師が役割をさらに発揮するために修了者として活躍の場を広げたいと思います。

第4期 看護師特定行為研修修了者

在宅・慢性期領域

2022年3月31日 織田昇子さん

2022年6月30日 筒井恵美さん

川下勝利さん

計3名



2022年6月30日 修了式



令和4年度 祐愛会 Zoom 新人歓迎会 「オンラインだからこそ楽しめる新人歓迎会を！」

事務管理部 牛島 久美子

令和4年4月23日(土)19時より祐愛会 Zoom 新人歓迎会を開催しました。事前に病院とゆうあいの職員で実行委員会を立ち上げ、いかに楽しんでいただけるような会にするか、職員の皆様へ日頃の業務に対する労いと感謝の気持ちや伝わるような会にしたいという気持ちで準備を進めました。

新人歓迎会のプログラムは、①理事長挨拶 ②院長乾杯発声 ③新入職員紹介(新任医師10名・新人職員22名・外国人職員3名) ④抽選会 ⑤至慈会西山理事長による閉式という流れで進行了ました。

新任医師紹介では、自宅からの Zoom での挨拶ということもあり、子供さんと一緒に挨拶をされた先生もおられ、職場では見ることのできないご自宅での父親の一面が垣間見え、ほっこりした場面もありました。また新人職員は、皆さまに顔と名前を覚えていただけるよう、各自工夫を凝らした自己紹介を行いました。22名と大人数でしたがとてもスムーズに次々とバトンを繋ぎ、チームワークの良さも感じられました。外国人職員の自己紹介では、母国を離れ知らない土地で新たな職場で頑張ろうとしている決意のこもった挨拶に感銘を受けました。

そして恒例の抽選会では、ゆうあい一座の皆様が盛大に盛り上げてくださり、次々に画面に映る当選された方々のとても嬉しそうな表情が印象的でした。



歓迎会後のアンケートでは、「自宅でリラックスして参加できた」「コロナ禍でなかなか他部署の新人さんと関わる事がないため、新人さんを知る事が出来て良かった」「工夫を凝らした自己紹介、素晴らしいかったです！団結力が感じられました」など、ありがたい意見をたくさんいただきました。素晴らしい自己紹介をしてくださった新入職員の皆様、当日会場をサポートしてくださった皆様、そして歓迎会にご参加いただいた職員の皆様、本当にありがとうございます。次の会は対面/オンラインに関わらず、さらにより良いものになるよう、試行錯誤しながら作り上げていきたいと思います。

当職員のEPA看護師候補生が、正看護師の国家試験に合格しました！

織田病院で働いているニル ゲデ エカ ユリティアワティさんが、2022年2月13日に行われた看護師の国家試験に合格しました！

エカさんは、2015年に日本へ来日し、織田病院に EPA 看護師候補生として入職されました。仕事と勉強の両立に励み、国家試験にも何度も挑戦され、今年見事に合格されました。



(本人コメント)

インドネシアで祖母が入院した時に、患者さんやその家族の話をよく聞いてくれる看護師さんがおられました。皆に平等で親しみやすく、家族のことまで気遣い親身になってくれました。この方が担当でよかった、と感じたことを今でも覚えています。その時から私は看護師になりたいと思うようになりました。

私が目指す看護は、どんな場所でも、どんな人にもでも提供できるので、今まで経験して学んできたことで患者さまの力になれることがあれば、全力を尽くします。日本に来て、病院で働き始めた頃は、緊張と不安が大きく毎日がいっぱいいっぱいでしたが、看護部長さんや先輩方、スタッフの皆さんか

ら優しい声を掛けていただき、あたたかい環境を作っていただいたおかげで、少しずつ職場にも慣れ、国家試験の勉強もできるようになりました。また、患者様との日々の関わりの中で、看護師として大切なことをたくさん学ばせていただいています。

今回、国家試験にも合格することができ、できる仕事も増えてきて、本当に嬉しいです。

私が看護師でいる限り「信頼される看護師」を模索していくと思います。患者さんからの「ありがとう」がある限り、私の目標とする看護を目指して進んでいきたいと思っています。

学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(2021年度)

【学会(研究会)発表】

- ・第32回 日本臨床モニター学会総会/シンポジウム
(4月24日 WEB)
織田良正「ICTを活用した退院後の患者の在宅見守りシステム」
- ・第6回JCVA(日本心血管協会)学術集会
(4月25日 WEB)
織田正道「医療分野で進むIoTの導入」
- ・第12回 日本プライマリケア連合学会/シンポジウム
(5月23日 WEB)
織田良正「地域医療でこそ、遠隔診療を！」
- ・Akihito Tsuji, Hisatsugu Ohori, Tatsuro Yamaguchi, Masato Matsuura, Atsujiro Nishioka, Akitaka Makiyama, Shingo Noura, Mitsugu Kochi, Tamotsu Sagawa, Masahito Kotaka, Yutaro Kubota, Yu Sunakawa, Takashi Sekikawa, Masato Nakamura, Masahiro Takeuchi, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii
The randomized phase II study of FOLFOXIRI plus cetuximab versus FOLFOXIRI plus bevacizumab as the first-line treatment in metastatic colorectal cancer with RAS wild-type tumors: The DEEPER trial(JACCRO CC-13)
2021 ASCO Annual Meeting 2021, 6, 4-8, Journal of Clinical Oncology, 39
- ・第76回日本消化器外科学会総会(7月7~9日 京都)
佐藤建、中村淳、中村宏彰、伊山明宏
「腸間膜デスマイド型線維腫症に対し、腹腔鏡下に摘出し得た1例」
- ・第62回全日本病院協会in岡山 プライマリ・ケア検討委員会企画(8月21日 岡山)
織田正道「在宅医療で進むICTの活用」
- ・第62回全日本病院学会in岡山(8月21・22日 WEB)
織田良正「COVID-19を契機に加速したオンライン診療の活用法と更なる可能性」
平古場涼子、川下みのり、太田麻友、辻田幸子「患者・家族をつなぐオンライン面会」
宮崎知子、副島りつ子、重松かおり「AI問診導入後の実態調査」
鶴丸直子、筒井久美子、増田恵理子、川下勝利
「術後疼痛管理における看護師特定行為研修修了者の介入効果」
田島まり子、織田良正、江口利信、吉井朋代、伊山明宏、西山雅則、織田正道
「織田病院で開発した在宅見守りシステムの評価と今後の課題」
牛島久美子、織田良正、中村典弘、田島まり子、中村知弘、宮崎公志、伊山明宏、西山雅則、織田正道「オンライン診療を円滑に実施するために ~医師事務作業補助者の役割~」
森純二「胸腰椎圧迫骨折患者へのADL段階的アップ
クリニカルパス導入(3日間ルール)・ビデオ通話でのフォロー」
- ・第15回日本慢性看護学会学術集会Web開催
(8月28日~9月17日)
原崎真由美「住み慣れた地域で自分らしく最後までを支

える看護」

- ・第25回 日本心不全学会学術集会 / U40 心不全ネットワーク企画3(10月2日 WEB)
織田良正「介護支援など社会的サポートに関して」
- ・第7回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会学会企画シンポジウム(11月7日 WEB)
織田良正、江口利信「地域医療における心不全連携」
- ・第43回佐賀救急医学会(11月20日 佐賀)
佐藤建、中村淳、中村宏彰、伊山明宏
「肺癌小腸転移による穿孔性腹膜炎の高齢患者に対して緊急手術を施行した1例」
- ・佐賀大学医学部4年次生講義(11月24日 WEB)
江口利信「社会医学・医療社会法制(ユニット12)社会福祉」
- ・第16回 医療の質・安全学会学術集会/教育セミナー
(11月27日 WEB)
織田良正「睡眠データを活用した医療の質・安全への新たなアプローチ」
- ・第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(12月4日)
松永圭司、坂田奈津子、竹内祐樹
「除菌治療にて縮小した小腸mucosa-associated lymphoid tissue リンパ腫の一例」
- ・第118回日本消火器病学会九州支部例会(12月4日)
坂田奈津子、竹内祐樹、松永圭司、安武努、中村宏彰、中村淳、佐藤建、伊山明宏
「乳癌による転移性胃十二指腸癌の1例」
- ・日本医療マネジメント学会第18回佐賀支部学術集会 特別講演(2月12日 WEB)
織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-」
- ・日本医療マネジメント学会第18回佐賀支部学術集会
(2022年2月12日 WEB)
牛島久美子、中村典弘、田島まり子、織田良正
「オンライン診療を実施するために ~多職種一丸となつての取り組み~」
平古場涼子、長妻麻友、辻田幸子「患者と家族をつなぐオンライン面会の実際」
鴨川晶子、重松かおり、真木恭子、織田良正「AI問診の現況」
久本由香、山口賢太、小柳有里、市丸徳美、原崎真由美
「IOTシステム(睡眠トレンド)を活用した夜間の転倒転落予防対策の検討」
- ・第19回日本乳癌学会九州地方会(3月5・6日 出島メッセ長崎)
中村淳、中村宏彰、佐藤建、米満伸久、伊山明宏「男性における舌癌乳腺転移の1例」
- ・第40回佐賀県看護研究学会(3月12日 佐賀)
鶴丸直子、筒井久美子、増田恵理子
「術後疼痛管理における看護師特定行為研修修了者の介入効果の検証」
- ・日本皮膚科学会第400回福岡地方会(3月13日 福岡)
中川彩、森槇子、織田洋子「コロナワクチン接種後に皮疹を生じた2例」

【講演・講義】

- ・Diabetes Web講演会（4月19日 WEB）
織田良正「コロナ禍における糖尿病オンライン診療の成果と課題」
- ・令和3年度 気候変動対策ウェビナー（5月26日 WEB）
織田良正「医療現場から気候変動への適応と緩和と考える」
- ・オンライン診療webセミナー in佐賀（6月2日 WEB）
織田良正「今からできるオンライン診療」
- ・佐賀県病院薬剤師会学術講演会（2021年6月5日 オンラインセミナー 佐賀大学）
西岡敦二郎「がん悪液質の病態とエドルミズへの期待」
- ・鹿島看護学校講師（2021年6月9日～8月2日の毎週水曜日、講義8時間 試験1時間）
三井あゆみ「リハビリテーション看護」
- ・ARNI WEB LIVE SYMPOSIUM in 佐賀南部（6月17日 WEB）
織田良正「より良い心不全地域連携のために」
- ・2021年度介護実務者研修介護労働講習（6月21日、7月2・13日、9月1日）
石井大輔「実践講習：生活支援①・②・④・⑤」
- ・日本看護協会DVD研修演習（7月15・16日 看護センター）
市丸徳美「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」
- ・在宅診療を考える会（8月3日 WEB）
織田良正「在宅診療におけるオンラインの可能性」
- ・2021年度病院長・幹部職員セミナー（日本病院会主催）（8月5日 東京・イイノホール）
織田正道「2025年へ向けた地域医療構想のゆくえー病院のあるべき姿とはー」
- ・令和3年度鹿島看護高等専修学校講義（8月25、9月1・8・15・22・29日、10月15日）
廣津辰美「人体のしくみと働き・疾病の成り立ち・成人看護 脳神経系」
- ・老年看護学概論（8月27日、9月1・13日、10月4・8・15・25日 鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校）久本由香
- ・佐賀県看護協会再就業支援技術セミナー（9月10日、10月29日、1月14日 看護センター）
山口賢太「採血・注射」
- ・2021年度介護実務者研修介護労働講習（9月10日）
石井大輔「生活支援技術Ⅱ」
- ・看護学概論（9月13日 独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター附属看護学校）
原崎真由美「看護提供のしくみと看護サービス提供の実際」
- ・全日本病院協会 第3回 若手病院経営者の会（9月14日 WEB）
織田良正「SDGs in Kashima - think globally, act locally for 2030」
- ・介護労働安定センター 実務者研修（9月15日）
光武耕治「生活支援技術Ⅱ（実技）」
- ・介護福祉士会 介護職種の技能実習指導員講習（9月18日）
光武耕治「移転すべき技能の理論と指導方法・実習指導の方法と展開」
- ・佐賀大学医学部医学科4年生講義Unit 1（10月5日 WEB） 織田良正「地域包括ケアと医療」
- ・佐賀大学全学教育科目（インターフェース科目）講義（10月6日）
江口利信「ライフサイクルからみた医療Ⅰ 医療現場における行動科学～MSWの視点から～」
- ・佐賀県介護福祉士会支部研修（10月8日、11月22日）
石井大輔「介護記録の書き方・考え方」
- ・宮崎県医師会病院部会・医療法人部会合同研修会（10月9日 宮崎）
織田正道「第8次医療計画について」
- ・佐賀県高等学校教育研究会福祉部会職員研修（10月13日）
石井大輔「介護過程について」
- ・嬉野高校非常勤講師（10月14・25・28日、11月4・8・11・18日、12月2日、1月13日）
石井大輔「生活援助技術」
- ・看護職員認知症対応力向上研修（10月15・29日看護センター）市丸徳美
- ・佐賀県在宅生活サポートセンター専門職向け講座（10月21日）
石井大輔「介護過程について」
- ・令和3年度在宅医療関連講師人材養成事業研修会（10月24日 WEB）
織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-」
- ・老年看護学特論（11月2日・佐賀大学大学院看護学科）
市丸徳美「認知症看護」
- ・第16回MIRAIユーザーフォーラム大会（10月26日 WEB）
森川伸一 テーマ別研究委員会 テーマ①「ニューノーマルに向けて必要なこと」
- ・第16回MI・RA・Isユーザーフォーラム大会（10月26日 オンライン開催）
森川伸一 テーマ別研究会①「ニューノーマルに向けて必要なこと」
- ・第26回ゆうあい公開セミナー（10月27・28・31日 ケーブルテレビ放映）
淵明子「多職種から学ぶ嚥下サポート・飲み込みやすい食事」
中根知子「嚥下障害の予防について」
- ・認知症サポーター養成講座（11月16日）
光武耕治「鹿島市民、鹿島市役所職員への認知症サポーター養成講座」
- ・介護職員キャリア研修（YouTubeにて11月～1月まで配信）
石井大輔「介護過程」「記録の書き方」
- ・医療経済フォーラム・ジャパン第104回定例研修会（11月22日 東京）
織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-」
- ・看護師の特定行為研修に関する講演会（11月22日 WEB）
織田良正「COVID-19 でさらに増した特定行為研修の重要性と今後の可能性」
- ・第27回ゆうあい公開セミナー（11月24・25・28日ケーブルテレビ放映）
森植子「多職種から学ぶ褥瘡ケア」
野田由香里「多職種から学ぶ褥瘡ケア：スキンケア」
宮原克昂「多職種から学ぶ褥瘡サポート・褥瘡予防ケア～栄養管理～」
- ・三井あゆみ「多職種から学ぶ褥瘡ケア」
- ・佐賀大学医学部4年次生講義（11月24日 WEB形式）

江口利信「社会医学・医療社会法制（ユニット12）社会福祉」

・HOSPEX Japan2021（全日病セミナー）
（11月25日 WEB）

織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-」

・認知症サポーター養成講座（11月26日）
神代修、石井大輔、光武耕治「古枝婦人会への認知症サポーター養成講座」

・2021年度 地域包括ケア病棟アカデミー 第4講
（12月1日～1月20日 WEB配信）

織田良正「地域包括ケア病床から在宅医療に繋ぐ認知症ケア」

・訪問型サービスA（生活援助型訪問サービス）従業者養成研修（12月7日）

石井大輔「介護保険制度」「尊厳の保持と自立支援」「生活援助技術」

・佐賀大学全学教育科目「インターフェース科目」現代社会と医療Ⅲ（12月8日）

織田良正「地域における二次医療機関」

・2020年度佐賀大学感染症医療人材養成事業（12月8日）
織田良正「コロナ禍における医療 -オンライン診療の現状と展望」

・看護職能Ⅱ研修会（12月11日 看護センター）
市丸徳美「ひとり暮らしの認知症高齢者への関わり」

・認知症サポーター養成講座（12月16日）
石井大輔、光武耕治「ライオンズクラブ会員への認知症サポーター養成講座」

・2022年（第4期）総合医育成プログラム 医療運営コース研修（全日本病院協会）（1月10日 WEB）

織田正道「地域医療構想と医療計画」

・労協第26回介護初任者研修（1月19日）
石井大輔「生活と家事」

・鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校
（2月7・14・21日）

原和行「保険・医療・福祉のしくみ」

・今だからこそ考える心不全×地域医療連携
（2月9日 WEB）

織田良正「地域医療におけるオンライン診療 -ICTを使った多職種連携システム-」

・病院マーケティングサミット Web座談会（3月11日）
織田良正「織田病院と先に行こう。」

・第一三共研修会（3月15日 オンラインセミナー）
西岡敦二郎「佐賀県における胃癌診療の現状」

・全国連携ナイトスクール（3月17日 WEB）
織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』『病院×在宅医療』」

【論文】

・織田正道「地域医療構想 これからの地域医療構想の行方-地域包括ケアシステムにおける地域密着型病院の役割-」『医療経営白書2021年度版』第1部2章 事例研究④

・織田正道「『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-」『社会保険旬報 No. 2845』

2022年2月1日発行

・小宗静男「耳科手術における基本技術」（DVD発行）
耳鼻と臨床Fukuoka

・岡村誠司、小宗静男、織田正道「短期間で両側の末梢性顔面神経麻痺と急性感音難聴を来した1例」

耳鼻と臨床68巻2号別刷2022年3月

・織田良正：在宅療養支援病院は新型コロナ禍の下でどのように在宅支援を行ったか。

病院, 80(7): 100-103, 2021

・織田良正：ICT を活用した地域医療～自宅を病床に、地域を病棟に～。

ジェネラリスト教育コンソーシアム, Vol.16: 93-97, 2021

・織田良正：病院と在宅の円滑な連携を推進するICTの活用。看護部長通信, Vol.19: 75-80, 2021

・織田良正, 本村壮, 西山雅則：地域の高齢者医療におけるデジタル技術の活用。

老年内科, 4(1): 1-8, 2021

・Tago M, Katsuki NE, Yaita S, Nakatani E, Yamashita S, Oda Y, Yamashita SI. High inter-rater reliability of Japanese bedriddenness ranks and cognitive function scores: A hospital-based prospective observational study. BMC Geriatr, 21(1): 168, 2021

・相原秀俊, 多胡雅毅, 香月尚子, 山下 駿, 徳島 緑, 徳島圭宜, 藤原元嗣, 織田良正, 西山雅則, 山下秀一. 地域中核病院における病院総合診療医の役割の検討 ～2013年と2019年の比較～. 日病総合診療医会誌, 17(6): 602-607, 2021

・中山翔太, 大串昭彦, 織田良正, 杉岡 隆. 末梢血好酸球増多から積極的に生検を行い好酸球性胃腸炎が疑われた1例. 日病総合診療医会誌, 17(2): 233-235, 2021

・中山翔太, 大串昭彦, 織田良正, 杉岡 隆. 心電図所見が診断に有用であった

急性肺血栓塞栓症の1例. 日病総合診療医会誌, 17(5): 570-572, 2021

・Hirata R, Fujiwara M, Aihara H, Oie S, Yamashita S, Tokushima Y, Hirakawa Y, Soejima S, Yamaguchi R, Oda Y, Katsuki NE, Tago M. Intravascular large B-cell lymphoma with endocrine disorder of the hypothalamus-pituitary axis required repeat random skin biopsy for diagnosis. J Hosp Gen Med, 3(4): 129-135, 2021

・中村淳, 中村宏彰, 佐藤建, 米満伸久, 伊山明宏「嚢胞内腫瘍の形態を呈した乳腺多形腺腫の1例」

超音波医学2022. 49巻2号171-176項

・中村淳, 中村宏彰, 佐藤建, 米満伸久, 伊山明宏「腸間膜デスマイド型繊維腫瘍に対し腹腔鏡下に摘出した1例」

日本内視鏡外科学会雑誌2021. 26巻4号318-324項

・佐藤建, 中村宏彰, 中村淳, 伊山明宏「残胃癌肝転移に対してcapeOX,S-1治療および手術にて長期生存を得ている1例」

癌と化学療法48 (9) : 1173-1175

・Fujita M, Ureshino H, Sugihara A, Nishioka A, Kimura S. Immune Thrombocytopenia Exacerbation After COVID-19 Vaccination in Young Woman. Cureus, 13:e17942-e17945, 2021・9

・牛島久美子, 中村典弘, 織田良正「オンライン診療を円滑に実施するために ～多職種一丸となって取り組んだオンライン診療～」医事業務 2022年2月1日号 第618号

新入職員紹介

一言メッセージ



伊藤 花音
4階病棟(看護師)

毎日がものすごく大変だという印象が正直な印象です。
これからも自分なりに精一杯日々、精進して頑張っていきたいと思えます。



宮原 千明
4階病棟(看護師)

慣れないことだらけで大変だけど頑張ります。



大園 しずく
4階病棟(看護師)

これまで約4ヶ月新人看護師として働いてきましたが正直まだ分からないことだらけです。日々新しいことを体験し一歩一歩ですが前に進んでいきます。笑顔だけは誰にも負けないように毎日頑張ります！



舟越 侑汰
3階病棟(看護師)

初めて覚えることが多く、まだまだ至らない部分も多いですが、今後も積極的に学び、看護師として自立できるように頑張っていきたいと思います。



大串 和葵
3階病棟(看護師)

入職してもうすぐ半年になります。慣れないことも多いですが、先輩方に沢山聞いて教えてもらいながら日々学んでいます。多くの知識を身につけて、視野を広げて、患者さんをしっかり観察できるように頑張りたいと思います。



池田 のぞみ
3階病棟(准看護師)

織田病院に戻ってきて、以前と変わっている事が多く、覚える事も沢山ありますが日々充実しています。
また、まだ慣れないことが多く、迷惑かけることばかりですが、日々勉強して成長したいと思っていますのでよろしくお願ひします。



百武 成美
診療支援部放射線科
(診療放射線技師)

一緒に働いている先輩方に少しでも近づけるように勉強し、多くの知識を身につけていきたいです。今後はマンモグラフィ認定技師の資格取得や乳腺エコーにも挑戦し、乳腺分野を強みのできる技師になりたいです。



執行 菜々実
診療支援部放射線科
(診療放射線技師)

優しい先輩方に指導していただき、機器の操作や撮影方法など、一つずつ仕事を覚えていくことができました。今後はCTやMRIなどの様々なモダリティに挑戦していきたいです。



清永 依央
診療支援部検査科
(臨床検査技師)

はやく独り立ちができるように頑張ります。



松田 瑠菜
リハビリテーション科
(理学療法士)

日々やりがいを感じつつもまだまだ自分の勉強不足を痛感しています。
患者様をサポートできるよう先輩方のような理学療法士になれるように頑張ります。



徳光 大輝
リハビリテーション科
(理学療法士)

先輩方が温かく丁寧にアドバイスして下さり、気軽に相談や質問ができるとても働きやすい職場だと感じています。患者様の身体面だけでなく精神面もサポートできる理学療法士を目指します。



山田 諒太
リハビリテーション科
(理学療法士)

分からないことは直ぐに聞けるような環境を先輩方に作っていただいているので、非常に働きやすく思っています。日常業務には慣れつつありますが、初めて経験する事がこれからは沢山出てくると思います。その際はご指導のほどよろしくお願ひします。



江口 優帆
訪問看護ステーション
(看護師)

入職して約4ヶ月、日々沢山の事を学ばせていただいています。はやく一人前の訪問看護師として、先輩方のように臨機応変に対応できる看護師になりたいです。



瀬頭 幸子
薬剤科
(薬剤師)

まだまだ覚えることに精一杯で迷惑かけることもたくさんありますが、笑顔で頑張っていきます。



白濱 春菜
健康管理センター
(保健師)

入職して半年たち、日々さまざまなことを教わり、学びながら頑張っています。今後も色々な経験を成長していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。



喜多 ひかり
栄養食事サービス部
(調理員)

調理師免許を取得できるように頑張ります。よろしくお願ひします。



小森 瑠菜
栄養食事サービス
(調理員)

まだまだ慣れない事ばかりですが、患者さまに少しでも早く元気になってもらえるようにサポートしていきたいです。



水川 瑚雪
医事課
(事務)

まだまだ不安な事もありますが、精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。



中村 晃輔
グループホーム三丁目
(介護職)

「この人で良かった」と思ってもらえるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

編集後記

医事課 中村典弘

昨年末、国内の新型コロナウイルス感染症は落ち着いたか？と少し期待しましたが、オミクロン株の感染が一気に全国へと拡がり、8月には新規感染者数過去最多記録を更新し続けました。多くの行動制限下での日常生活、多忙な医療現場での業務、皆様本当にお疲れ様です！

さて、今年度も多くの新入職員が祐愛会の仲間に加わりました。コロナ禍で新人歓迎会の開催が難しい中、記事にもありますようにオンラインでの歓迎会が開催されました。運営に携わった職員の方々、本当にお疲れ様でした。マスク生活はまだ続きそうです。が、もうすぐ明るい未来がやってくると思っていて頑張ります！！

